

兵庫県立がんセンター 腫瘍循環器科にて
肺腫瘍塞栓性微小血管症 (PTTM) または腫瘍関連肺高血圧症
と診断された方およびそのご家族の方へ

この研究の対象者に該当する可能性がある方で、
診療情報等を研究目的に利用または提出されることを希望されない場合
研究への協力を希望されない場合、あるいは協力を途中でおやめになりたい場合は
末尾に記載の問い合わせ先または主治医までご連絡ください。

【研究課題】

腫瘍関連肺高血圧症レジストリ研究 (審査番号 TK24-012)

【研究機関名及び自機関の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関	兵庫県立がんセンター	腫瘍循環器科
研究責任者	腫瘍循環器科部長	野中 颯子
機関の長	兵庫県立がんセンター 院長	富永 正寛

担当業務 データ取得・提供

【共同研究機関】

文書末尾に記載

【既存試料・情報の提供のみを行う者】

文書末尾に記載

この研究に利用する情報は共同研究機関の範囲のみで利用されます。

【研究期間】

承認日 ～ 2029 年 1 月

本研究は長期にわたる研究を計画しています。記載の研究期間終了後も継続する場合は研究期間延長の申請を行う予定です。

【対象となるかた】

1. 担がん状態(がん種、stage は問わない、過去 5 年以内のがんの既往を含む)
2. 心臓カテーテル検査(平均肺動脈圧 21 mmHg 以上)または心エコー(三尖弁逆流速度 3.4 m/s. 以上)で肺高血圧を認める
3. 年齢が 18 歳以上のかた
4. 性別は問わない
5. 過去に肺腫瘍塞栓性微小血管症(PTTM)と診断されたかた

・以下のような方は参加できません。

1. 18 歳未満のかた
2. 担当医師が不相当と判断したかた

【研究目的・意義】

肺高血圧症は、心臓から肺に血液を送り届ける肺動脈に何らかの変化を来たして、肺動脈の血圧が高くなってしまふ病気です。この病態は先天性心疾患や膠原病など、さまざまな原因があり、それらによって肺血管の構造が変化し肺血管抵抗値が上昇するために生じます。その結果、心臓の(特に右心室の)負荷が上昇するため、血液の循環が十分でなくなり、軽度の労作でもすぐ息苦しくなることや、場合によっては気を失うこともあります。また、足がむくんだり、肝臓が腫れたり、ときにはお腹に水が溜まったりもします。本来、右心室は高い圧力に耐えられるようには出来ておりませんので、このような状態が長く続くと右心室がうまく働かなくなり、右心不全の状態となり、場合によっては死につながる可能性があります。近年はがんに伴って肺高血圧症がおこる腫瘍関連肺高血圧症という概念も提唱されています。がんの多い本邦では重要な病態と考えられますが、その実態については明らかではありません。

もともと肺高血圧症は予後不良の稀少疾患であり、病態解明や治療法開発のため本邦でも全国レベルでのレジストリ研究が行われてきました。しかしながら、肺腫瘍塞栓性微小血管症(PTTM)を含む腫瘍関連肺高血圧症に関するレジストリは存在しません。そこで、PTTM を含む腫瘍関連肺高血圧症患者の経過や診療内容などのデータを中心に収集し、持続的に評価項目の検討を行い、腫瘍関連肺高血圧症の疫学の把握、治療法の検討に結びつけていくことを目的とし本レジストリ研究を行うこととしました。

【研究の方法】

これまでの診療で診療録(カルテ)に記録されているデータを取得して行う研究です。特に研究対象者の皆さんに新たにご負担いただくことはありません。取得項目は以下の通りです。

- 1) 研究対象者の背景